

日本映画衛星放送株式会社 第45番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成27年5月19日(火) 15時～16時
2. 開催場所 : 東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画衛星放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 8名 / 出席委員数 8名
出席委員(順不同、敬称略) : 菊地 実・鈴木 嘉一・川本 三郎・坂井 保之・
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正

放送事業者側出席者：取締役	佐藤 信彦
編成局長	宮川 朋之
編成制作部長	澤 尚志
編成制作部	塚田 洋子
番審担当	堤 靖芳
	清水 明(記)

4. 議題(1) 審議事項

日本映画専門チャンネル オリジナル番組「監督 黒澤明と歩んだ時代 ～
世界は今も夢を見る～」第3回「実験と革新」について

(2) 報告事項

「まんが日本昔話」について

5. 議題(1) 概要

戦前から90年代まで、「日本人」を描き続けた黒澤映画。作品制作当時、スタッフはどんな意識で映画を作り、観客はどんな意識でそれを受け止めたのか。今も世界中を魅了する全30作品を5つの時代に分け、笠井信輔アナウンサーが黒澤映画を知る重要人物にインタビュー、新たな視点で「黒澤映画の楽しみ方」を切り拓く全5回の連続番組を、時代劇専門チャンネルと日本映画専門チャンネルの共同企画として製作、同時放送した。については、第3回「実験と革新」を見て、以下の点をポイントに留意しつつ審議した。

- 本番組は特集のナビゲーションとして視聴者の興味を広げることに結びついているか。
- 本番組は黒澤映画に新たな視点を与える目的を果たしているか。

6. 議題（1）審議内容

- ・時代背景がよくわかり勉強になった。現在では高く評価されている『生きものの記録』が、55年公開当時はヒットしなかったことは、日本人は社会問題に当時から鈍感で無関心だったのかと感じた。ゲストのコメントも興味深かった。
- ・両チャンネルのコラボ番組だが、双方の視聴者にとって良い影響があった。この番組により新作を案内されるような喜びを感じた。ただ、番組冒頭に全体を俯瞰する回がほしい。黒澤監督は神格化されがちだが、批判的な意見を取り上げてほしいと思う。
- ・見るべきポイントなど初めて知ることが多く、大変興味深く番組を見た。幅広い層にアピール可能な入門編として良かったと思う。
- ・日本映画専門チャンネルの視聴者は映画好きが多いので、この内容は疑問だ。お馴染みの証言者がいつものエピソードを語っているに過ぎない。時代背景や映画史上の位置づけまで掘り下げられず、作品論に終始していた。黒澤を神格化するわけではないが、その素晴らしさを、もっと熱く伝えてほしかった。
- ・巨匠・黒澤明の前で制作スタッフが足掻いている印象だ。黒澤の素晴らしさを知らしめたいというのなら、もう一步踏み込むべきだ。
- ・新しい発見がなかった。池辺晋一郎の「黒澤は北方志向だった」という発言なども、そこからの発展がない。ゲストへの遠慮があったのか。しかし、関係者の証言インタビューも今撮っておかないとこの先難しくなる。こうした番組を作る意義はある。
- ・黒澤を振り返る企画、番組を製作・放送することは時宜を得ている。本編の映像を挿入しつつ放送映画を解説するので親切だった。黒澤映画、特に初期から中期作品は、今の若い映像クリエイターは必見。こうした番組を通じてもっと知ってほしい。
- ・新しい発見があった。証言者もベストの人選。黒澤映画の大きな世界を感じた。特に『蜘蛛巣城』主演の三船敏郎が大量の矢を浴びる場面の撮影エピソードには驚いた。山崎貴監督が登場した「私の1本」や「黒澤家の食卓」といった閑話休題的なコーナーも非常に興味深く、構成的にも良かった。

<事業者回答>

- ・日本映画専門チャンネルでは黒澤特集は4度目となるが、時代劇専門チャンネルでは初めて。この番組は両チャンネルで放送するが、時代劇専門チャンネルの入門者に軸足をおいた。2チャンネル共同企画の難しさを感じている。目新しい新情報や新証言に欠けた。マニアックなファンからすると食い足りないだろう。
- ・幅広い視聴者に訴求できる入門編的番組を目指した。インタビューに関しては、古い映画関係者とも交渉したが、黒澤を語ってもらうのは難しい部分がある。若手クリエ

イターにも出演をオファーしたが、テレビで黒澤を語ることは「おこがましい」と断られることが多かった。新証言者を開拓できなかったことは残念だ。

- ・番組宣伝ではあるが、それ以上の重みのある内容だった。映画作家にフォーカスする番組を製作する際には、幅と奥行を兼ね備えた番組へともっと進化させていきたい。

7. 議題（2）報告事項

子供の日の5月5日に国民的人気アニメ「まんが日本昔ばなし」60話を一挙放送した。時代劇専門チャンネルで、時代劇ではない番組を放送するのは数少ないが、視聴者から喜びの声が多く寄せられ、スタッフも予想以上の反響に驚いている。この番組は1975年から放送された人気番組だったが、最近漸くDVD化された。再放送は時代劇専門チャンネルが初めてである。当チャンネルの視聴者はシニア層が多いが、3世代、4世代と一緒に楽しめる数少ない貴重なコンテンツだと思っている。家族の団らんをもう一度、という思いを込めて、7月から、地上波初放送当時と同じ毎週土曜日夜7時からのレギュラー放送をしていく。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、2015年7月21日(火)開催。